

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第26週 (6/24-6/30) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		26週	25週	24週	23週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/24-6/30	6/17-6/23	6/10-6/16	6/3-6/9	6/17-6/23
			26週	25週	24週	23週	25週
小児科	RSウイルス感染症		0	10	1	3	35
			0.00	0.56	0.06	0.17	0.26
	咽頭結膜熱		11	20	11	10	106
			0.61	1.11	0.61	0.56	0.79
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		37	51	43	44	459
			2.06	2.83	2.39	2.44	3.40
	感染性胃腸炎		106	97	105	123	676
			5.89	5.39	5.83	6.83	5.01
	水痘		4	4	3	4	68
			0.22	0.22	0.17	0.22	0.50
	手足口病	★★	115	98	83	39	693
			6.39	5.44	4.61	2.17	5.13
	伝染性紅斑	○	23	21	11	19	119
			1.28	1.17	0.61	1.06	0.88
	突発性発しん		16	11	11	11	64
			0.89	0.61	0.61	0.61	0.47
	ヘルパンギーナ		22	7	2	3	76
			1.22	0.39	0.11	0.17	0.56
	流行性耳下腺炎		6	5	3	0	30
			0.33	0.28	0.17	0.00	0.22
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	5	5	28
			0.00	0.00	0.18	0.18	0.13
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
	流行性角結膜炎	○	7	1	3	4	20
			1.40	0.20	0.60	0.80	0.57
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		1	0	1	0	0
			1.00	0.00	1.00	0.00	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	1	0	0	1
			0.00	1.00	0.00	0.00	0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	画像検査	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	画像検査等	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	男性	50歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	女性	40歳代	血清IgA抗体の検出	風しん	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出	-	-	-	-

・第26週は、結核3件(94)、E型肝炎2件(7)、レジオネラ症2件(7)、梅毒1件(18)、百日咳3件(62)、風しん2件(34)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第26週のコメント

＜手足口病＞前週より更に増加し6.39となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

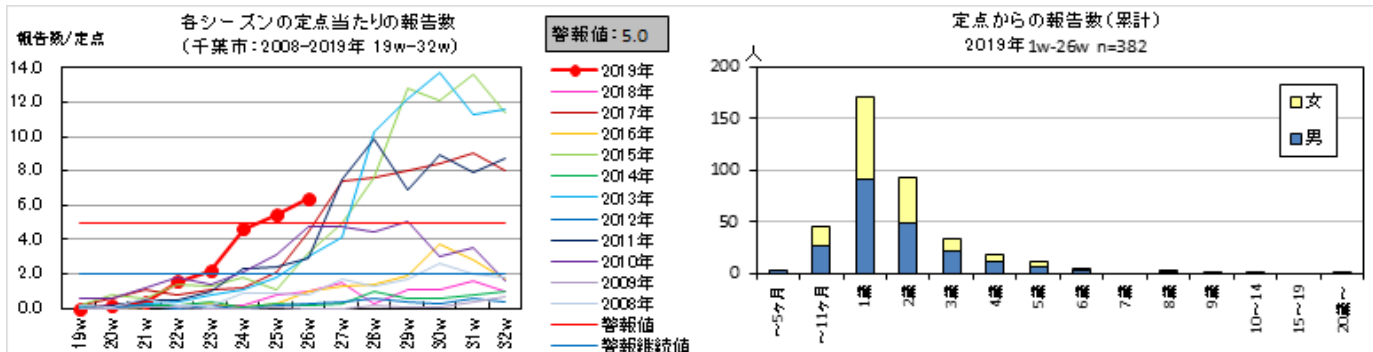
＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.28となった。過去10年の同時期と比べるととても多い。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し1.40となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

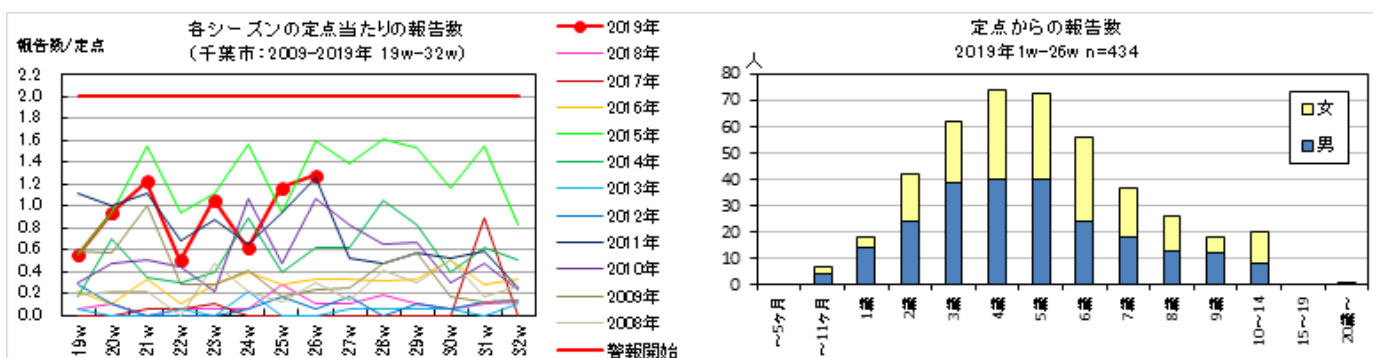
＜手足口病＞

全国レベルの第25週の定点当たりの報告数は5.18で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では福岡県、福井県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は5.13で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第26週は前週より更に増加し6.39となりました。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(13.7/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。その他、花見川区(9.5/定点)及び若葉区(10.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2019年第1週から第26週までの累積報告数は382件で、性別では男性が55.0%(210名)、女性が45.0%(172名)となっており、年齢階級別では1歳(44.8%:171名)、2歳(24.3%:93名)、6-11か月(11.8%:45名)の順で多くなっています。



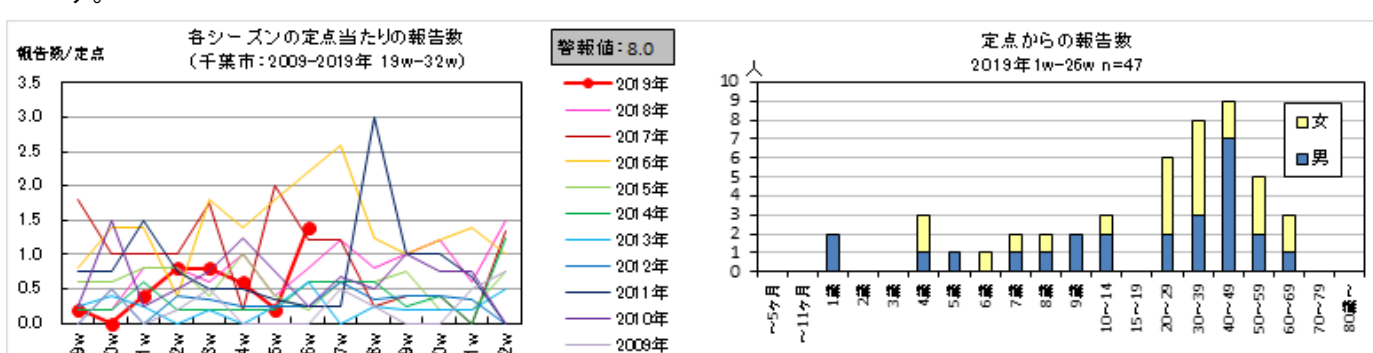
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第25週の定点当たりの報告数は0.93で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、長野県、福岡県、富山県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.88で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第26週は前週より増加し1.28となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(2.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最も多く、同区の5歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第26週までの累積報告数は434件で、性別では男性が54.4%(236名)、女性が45.6%(198名)となっており、年齢階級別では4歳(17.1%:74名)、5歳(16.8%:73名)、3歳(14.3%:62名)の順で多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第25週の定点当たりの報告数は0.68で、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、宮崎県、愛媛県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.57で、全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第26週は前週より増加し1.40となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(5.0/定点)で最も多く、同区の5歳～7歳、40歳代及び50歳代で発生報告がありました。2019年第1週から第26週までの累積報告数は47件で、性別では男性が53.2%(25名)、女性が46.8%(22名)となっており、年齢階級別では40歳代(19.1%:9名)、30歳代(17.0%:8名)、20歳代(12.8%:6名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第25週の発生届累積数は1848件で、昨年の同時期と比べると50倍近くとなっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第26週に2件の発生届があり、2019年の累積数は34件となりました。性別では男性が79.4% (27名)、女性が20.6% (7名) となっており、年齢階級別では30歳代 (35.3% : 12名)、40歳代 (29.4% : 10名)、50歳代 (11.8% : 4名) の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の8割以上を占めています。

